

地域防災データシート* No. 1

伊豆大島噴火時の島内避難先と交通手段

大島住民が島内で避難する際に用いた交通手段としては、徒歩の他に、自動車、バス、バイクなどがあつたが、その利用状況は地区によってかなり異なつていた。

最初に避難したときに用いられた主な交通手段を地区別にみると、泉津と岡田では徒歩63%、自動車32%、北ノ山では徒歩18%、自動車78%、元町では徒歩55%、自動車41%、野増では徒歩80%、自動車18%、差木地では徒歩36%、自動車57%、クダッチでは徒歩74%、自動車23%、波浮では徒歩69%、自動車28%となっている。

しかし、島内でその次に避難場所を変えたときの交通手段としては、バスがもっともよく使われていた。例えば、北ノ山ではバス54%、自動車28%、元町ではバス31%、自動車9%、野増ではバス91%、自動車7%、差木地ではバス87%、徒歩7%、クダッチではバス40%、徒歩48%、波浮ではバス46%、徒歩31%、自動車16%となつていた(東京大学新聞研究所調査による)。

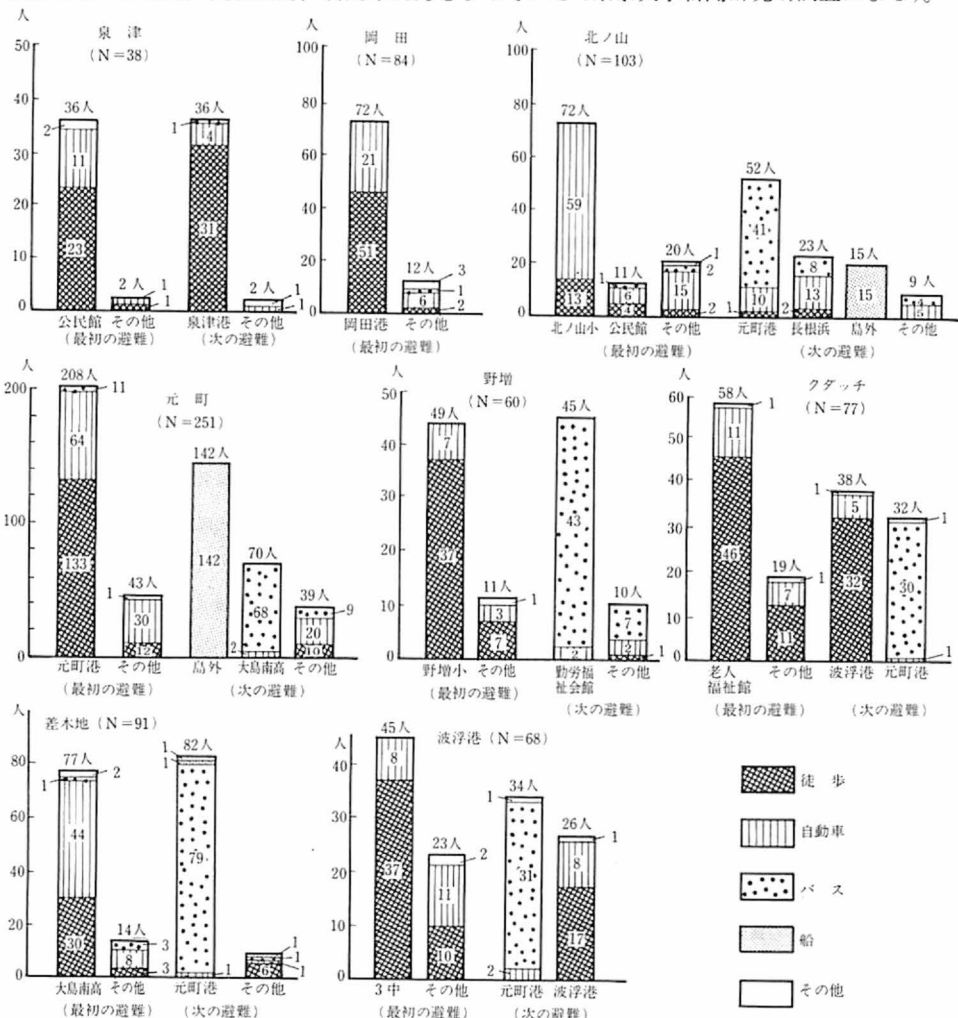


図 5.2.3 地区別避難先と交通手段(三上俊治作成) (図中の数字は調査対象者中の人数で実数ではない)

—地域防災データ総覧—地域避難編—(勤消防科学総合センター)より—

* データシートの形態をとる情報は、コピーを取ったり、内容をコンピュータに入れてデータベースとして利用するようとき、きわめて便利である。